

平成19年9月5日

各位

熊本県熊本市南熊本三丁目14番3号
株式会社トランスジェニック
代表取締役社長 是石 匡宏
(コード番号 2342 東証マザーズ)
(連絡先) IR・広報担当 森田 貴子
電話番号 078-306-0590

抗HIVモノクローナル抗体の発売について

株式会社トランスジェニックは、当社独自の技術であるGANP[®]マウス技術^{*1}により開発した、抗HIV-1 (gp120) モノクローナル抗体^{*2, *3}を、平成19年9月5日に発売いたします。

このたび発売する抗体は、独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 平成14年度補正 大学発事業創出実用化研究開発事業に採択されたプロジェクト「高親和性抗体産出GANP遺伝子導入マウスを用いた抗体医薬創出の基盤技術の開発～エイズ治療薬をモデルとして～」において開発されました。本抗体は、高い親和性を持ち、HIV-1の感染を阻止する機能を持つことが明らかとなり、財団法人くまもとテクノ産業財団 (以下、同財団) により、国際出願されています (「抗HIV抗体 (PCT/JP2004/003046)」)。

当社は、平成18年 7月13日に同財団より本件特許の独占的通常実施権許諾を受け、事業化を図るための検討を行ってまいりました。このたび、この取り組みの成果のひとつとして、研究用試薬として本抗体を発売いたします。

なお、GANP[®]マウス技術および本抗体の有用性については、熊本大学大学院医学薬学研究部 阪口薫雄教授らにより、米国の著名な科学雑誌「The Journal of Immunology」に発表されております。

以上

ご参考：

[平成14年度補正 大学発事業創出実用化研究開発事業に採択：平成15年4月 1日付 プレスリリース「抗HIV抗体」の実施許諾契約の締結について](#) : [平成18年7月13日付 プレスリリース](#)

用語説明：

※ 1 GANP[®]マウス技術

GANP遺伝子が過剰に働く遺伝子改変マウス「GANP[®]マウス」を用いて抗体を作製する当社独自の技術です。一般的な抗体の作製技術に比べ、親和性ならびに特異性の高い抗体を高確率で取得でき、体外診断薬・医薬へ応用の際には有利となる技術です。

当社は、本技術を抗体関連の技術プラットフォームにおける基盤技術と位置づけ、自社製品開発への活用のみならず、抗体作製受託および製薬企業・診断薬メーカーなどへのライセンス許諾を行い、技術ライセンス収入・製品ロイヤリティを見込めるビジネスを展開しています。

◆ GANPとは？ (GANP: Germinal Center Associated Nuclear Protein)

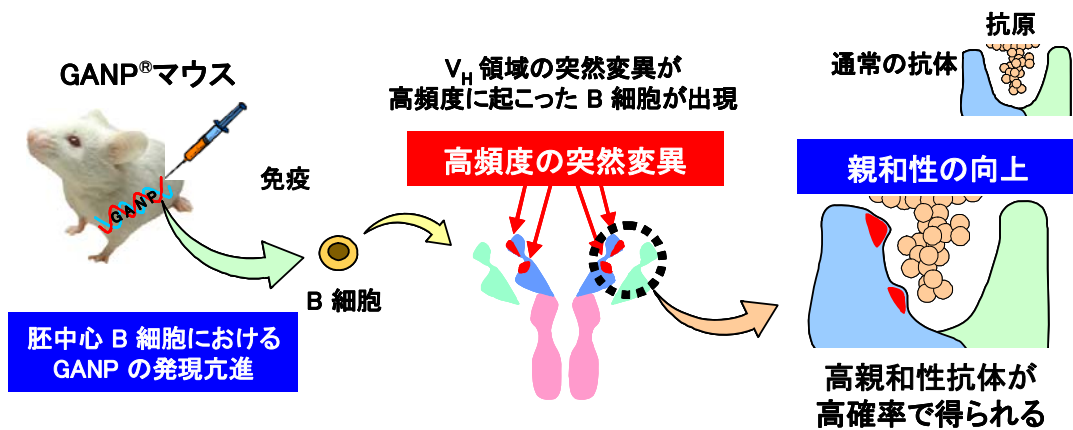
胚中心のB細胞で発現上昇する新規核内因子として、阪口薫雄教授(熊本大学)らにより発見されました。

◆ GANP[®]マウスの特徴は？

通常のマウスに比べ、胚中心B細胞でGANP遺伝子の発現が亢進します。そのGANPタンパクの働きにより、通常では得られないような、抗体可変領域遺伝子に多くの突然変異が導入されたB細胞が産生され、高確率で高親和性抗体や高特異性抗体を作製することが可能です。

◆ 参考文献

Sakaguchi N. et al., J Immunol. 2005 Apr 15;174(8):4485-94.



※ 2 HIV

ヒト免疫不全ウイルス (Human Immunodeficiency Virus : HIV)。

ヒトの免疫細胞に感染し、後天性免疫不全症候群 (Acquired Immune Deficiency Syndrome : AIDS) を発症させるウイルスです。HIV-1、HIV-2という2つのタイプが存在します。

※ 3 gp120

HIV-1表面にある糖タンパク質のひとつがgp120です。

HIV-1が免疫細胞に感染するには、gp120と免疫細胞表面のCD4分子が結合することが必要です。

それゆえ、この結合を阻害することは、HIV-1の免疫細胞への感染阻止に繋がります。

